

令和7年度「大阪府芸術文化振興補助金」及び「輝け！子どもパフォーマー事業補助金」の審査について

令和4年に活動を開始した第3期大阪アーツカウンシルは、この3年間で多くの事業視察を実施し、大阪府内全域で多種多様な文化芸術活動が活発に展開されていることを改めて確認いたしました。

視察の際には、事業者のご都合が許す限りヒアリングを行い、その活動状況をより深く理解するよう努めました。また、事業の視察にとどまらず、アンケートやインタビュー調査などを通じて、大阪府全体の文化芸術活動の現状や課題の把握に努め、創造環境の整備に微力ながら貢献すべく努めてまいりました。

こうした活動を通じて、私たち大阪アーツカウンシル委員は各補助金の採択審査を行う責任の重さを改めて強く認識した上で、令和7年度の審査に臨みました。

令和7年度の募集結果は、「大阪府芸術文化振興補助金」で合計54件の申請があり、13件を採択、採択率は24%となりました。「輝け！子どもパフォーマー事業補助金」については合計34件の申請があり、そのうち18件が採択され、採択率は53%となりました。昨年度に比べてそれぞれの申請数は、10件、14件の増加となりました。

審査員一同、申請書の一つひとつ拝見し、皆さまの活動への強い想いに触れ、可能な限り多くの活動を支援したいという想いに駆られました。しかし、各補助金の財源は府民の皆さまの税金や寄附であることから、府民や寄附者への説明責任を果たすため、限られた財源を最も適切に配分するとともに、多角的かつ慎重な審査を行いました。限られた財源であるが故、多くの熱意ある申請を採択できない現実、審査員として非常に心苦しいものでした。

令和7年度の審査もこれまでに引き続き、各補助金の本来の目的に立ち返り、その目標とする効果を再確認しました。「大阪府芸術文化振興補助金」は府民に優れた芸術文化の鑑賞機会を提供し、芸術文化の振興を図ることを目的としています。また、「輝け！子どもパフォーマー事業補助金」は文化を通じた次世代育成を目指しています。これらの補助金においては、単に質の高い文化芸術活動を支援するだけでなく、府民の生活の質の向上や社会全体への貢献にも繋がることが求められます。申請者の皆さまには、このような広い視野に立って事業計画を策定いただくことが重要となります。

以上の観点を踏まえ、「大阪府芸術文化振興補助金」の審査では、優れた文化芸術活動であることを前提に、府民が芸術文化に触れる機会を効果的に提供するための工夫や、次世代の担い手育成、地域や学校との連携、自律的かつ持続可能な活動環境の整備につながるかなどを重視しました。

「輝け！子どもパフォーマー事業補助金」の審査では、子どもが主体的に関わる取り組みの有無や、事業の実施体制、子どもたちの感性や創造性を育むプログラムになっているかどうかや、新規層への広報・

集客の工夫を評価しました。また、今年度から新たに、本補助金の目的に沿った申請を積極的に評価するため、より多くの子どもたちが参加できる仕組みを提案した申請者には審査の際に加点評価を行いました。

コロナ禍を経て、近年、補助金等の申請書作成に関する講座や勉強会が増え、その結果、提出される申請書の質は全体として著しく向上しています。一方で、従来と内容が変わらない申請については、過去に採択されていたものと同様の事業であっても採択が難しくなっております。これは事業内容自体に問題があるためではなく、申請書上での表現や具体性が不足し、公平な審査基準においては評価が難しくなったことに起因しています。不採択となった場合でも、事業そのものに問題があるわけではなく、各補助金の目的や公表されている審査項目や審査のポイントとの関連性を申請書や面接審査の中で明確に示すことが求められています。

補助金獲得のために事業自体を変える必要はありません。むしろ、すでに実践している取り組みを俯瞰し、申請書で明確かつ具体的に言語化することが重要です。今回の結果にかかわらず、次年度以降も継続して申請いただき、その過程で活動内容の精査や魅力向上につなげていただければ幸いです。

大阪アーツカウンシルとしては、補助金審査を単なる補助金事業の選定の場に留めず、大阪の文化芸術活動の現状や課題を共有し、文化政策を検討するための重要な機会として位置付けています。今後も審査を通じて把握した課題の解決に努め、文化芸術関係者の皆さまの活動を支援しつつ、大阪の文化芸術分野をつなぐ「架け橋」となるべく積極的に活動を展開してまいります。

大阪アーツカウンシル
統括責任者 宮崎優也